

2022年3月期～2024年3月期

中期経営計画

— *Next 50 Innovation 2nd* —



株式会社 JCU

東証 1 部 4975



目次

I. 企業理念、CSR方針、
JCUスピリット

II. 当社の歩み

III. 業績推移

IV. 前中計の実績

V. 当社を取巻く環境

VI. 目指す姿

VII. 新中期経営計画

1. 基本方針

2. 数値目標

3. 基本戦略

4. 資本政策の考え方

I .企業理念、CSR方針、JCUスピリット

企業理念

表面処理技術から 未来を創造する

～ Explorer in Surface Engineering ～

私たちは、創業以来、装飾・防錆めっき技術から発展した様々な表面処理技術の提供で、自動車、エレクトロニクスなどの産業の成長を支えてきました。

これからも、長年培った知見と研究・開発力で、新たな表面処理技術を追究し、ものづくりを支え、世界中の人々の豊かな生活に貢献します。

I .企業理念、CSR方針、JCUスピリット

CSR方針

**私たちは、社会の持続可能な発展に貢献するために、
4つのCSR方針を定めました。**

1. 研究開発型企业として、よりよい製品・サービスを提供し続けます。
2. 法令や社会ルールを遵守し、それらを超える社会的な要請にも取り組みます。
3. ステークホルダーと適切なコミュニケーションを図り、信頼関係の維持に努めます。
4. 経営の透明性を高め、社内の風通しをよくし、公明正大な企業活動を行います。

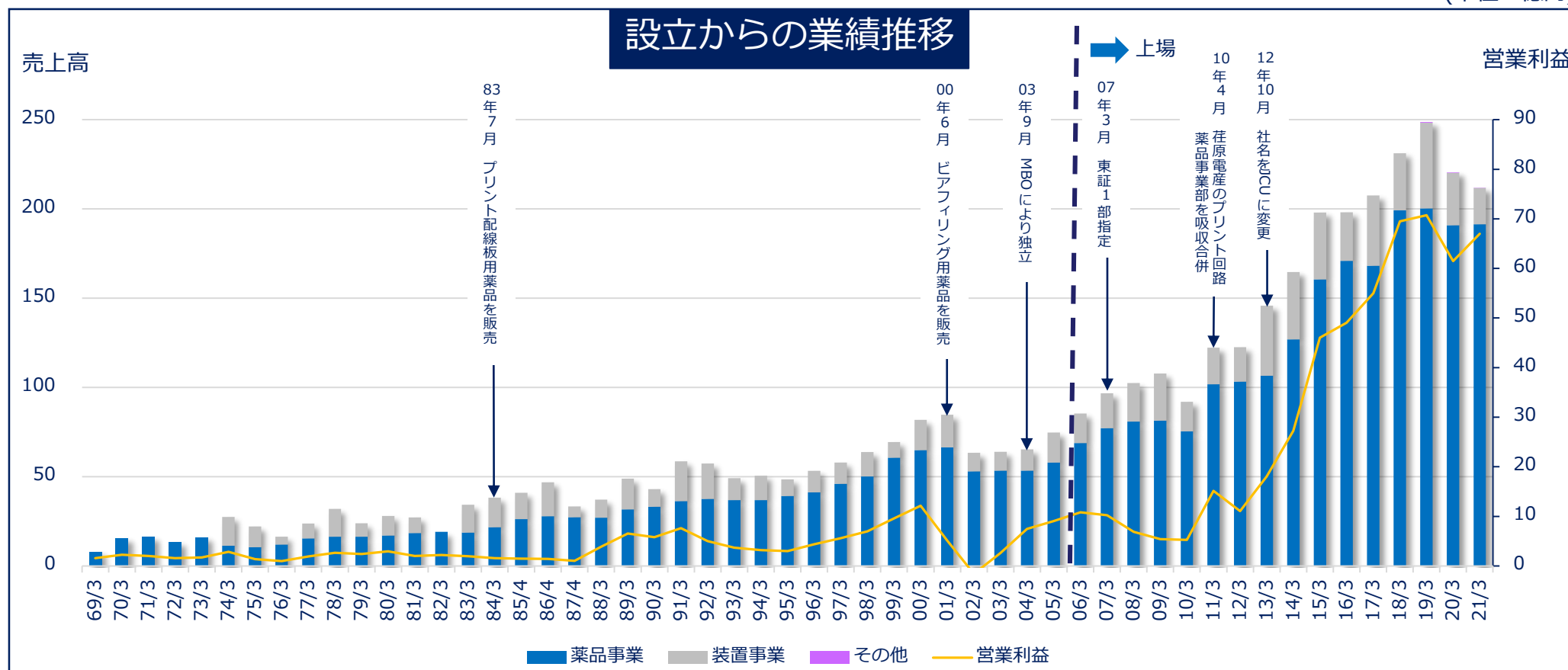
JCUスピリット

**私たちは、物事に対しては「情熱」をもって当り、
人に対しては「誠心誠意」を尽くす、
即ち「熱と誠」の精神をもって日々の仕事に取り組みます。**

Ⅱ. 当社の歩み

- 創業当初は米国ユージライト社から装飾・機能めっき薬品を輸入、販売（1958年以降）
- 電子分野向け薬品の開発、販売開始（1983年以降）
- ビアフィリング向け薬品の開発、販売開始（2000年以降）
- MBOを契機に海外展開を加速（2003年以降）
- スマートフォン市場の成長により、業績が急拡大（2013年以降）

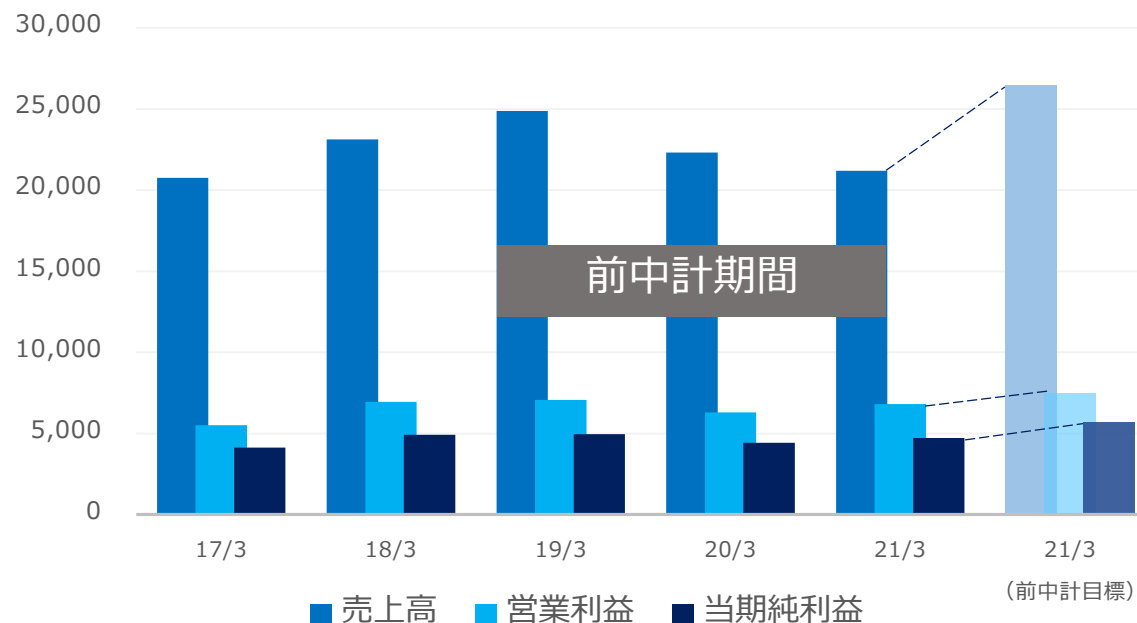
(単位：億円)



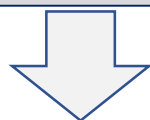
Ⅲ.業績推移

(百万円)

	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期
売上高	20,760	23,120	24,866	22,319	21,192
営業利益	5,500	6,948	7,072	6,297	6,799
経常利益	5,502	6,972	7,192	6,240	6,922
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,124	4,906	4,963	4,416	4,708



新製品売上比率
2021年3月期目標
10%以上



実績 9.4%

(2017年3月期実績3.2%)

外部環境

- ・ 5Gインフラ整備開始
- ・ 電子デバイスの高機能化
- ・ スマートフォン販売台数の減少
- ・ 米中貿易摩擦による自動車の販売台数の減少
- ・ COVID-19による世界的な景気低迷

IV.前中計の実績







できたこと

- ・グローバルネットワークを活用した市況耐性のある売上実績
- ・中国湖北に新工場及びテクニカルセンターを設立
- ・中国市場における自動車分野向け、電子分野向け薬品の売上拡大
- ・新素材への表面処理技術の研究開発
- ・自動車部品向け、薬品と装置の一体販売
- ・法令遵守のための体制構築

課題

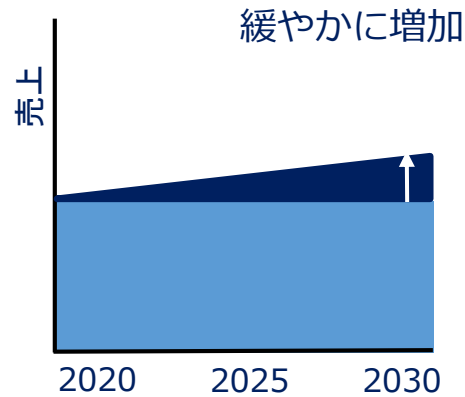
- ・将来のニーズ、先端技術に関わる情報収集の強化
- ・環境配慮、省資源化など長期視点での製品開発
- ・人材育成
- ・最新技術を取入れた生産体制の拡充
- ・薬品性能を最大限生かす装置開発
- ・グループ会社におけるコンプライアンス体制の強化

V.当社を取巻く環境

市場予測		
自動車		中国、新興国が牽引するも微増
スマートフォン		飽和状態により横ばい
PC タブレット		テレワークの常態化等により微増
サーバー		データセンター向けを中心に需要増加
基地局		5G関連投資が各国で進み需要拡大
ウェアラブル 電子デバイス		高機能化が進み需要拡大

V.当社を取巻く環境

樹脂めっき部品



自動車部品

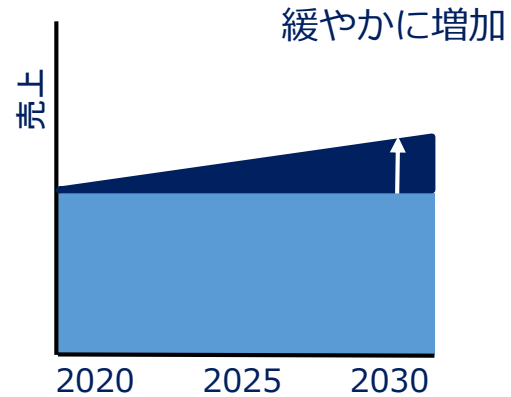


水栓金具

要因

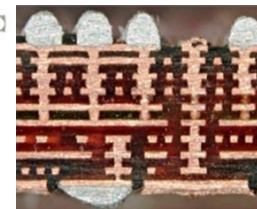
- 自動車生産台数は長期的には微増
- EV化に伴うデザイン変更によるめっき部品減少が懸念材料
- EV車割合は2030年で20-30%程度の予測
- 要求性能は新素材上へのめっき

ビルドアップ基板



iPhone12メイン基板

出典：iFixit
<https://jp.ifixit.com/Guide/>

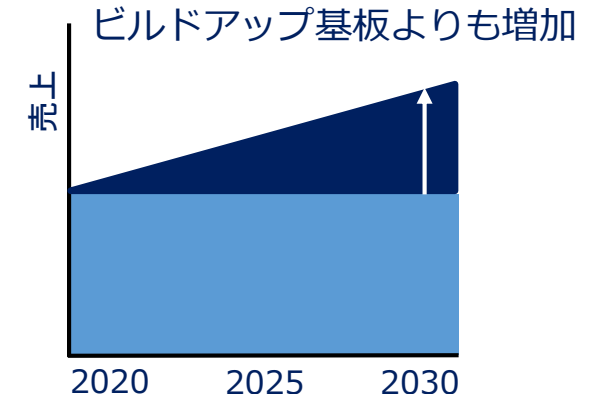


ビルドアップ基板断面写真

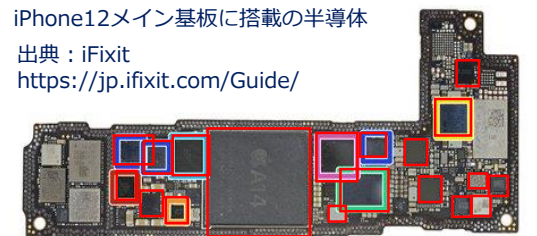
要因

- スマートフォン生産台数は買い替え期への移行に伴い横ばい
- PC、タブレット関連はテレワークの常態化等により微増
- スマートウォッチ、AIスピーカー等は増加。
- 要求性能は薄膜フィリング

半導体パッケージ基板



iPhone12メイン基板に搭載の半導体
 出典：iFixit
<https://jp.ifixit.com/Guide/>



要因

- 5G、IoT、さらには6Gを中心とした長期的な半導体使用量の増加
- モジュール製品の増加
- FO-WLP、FO-PLPへの移行が懸念材料
- 要求性能は平滑性、面均性

V.当社を取巻く環境

事業環境の変化

- 技術革新による工法の変化
- 環境規制
- China+1への製造業の移行
- 急激な為替変動
- 米中貿易摩擦

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



リスク

製品開発の遅れ	技術の流出	コンプライアンス問題の発生
環境規制	企業ブランドの毀損	地政学リスク

機会

新技術で業界をリード	環境対応製品で持続可能な成長に貢献	ガバナンス体制強化による企業の持続的成長
イノベーションの創出 ビジネスチャンスの創出	SDGsへの取り組みによる企業価値向上	グローバルマーケットシェアの拡大

VI. 目指す姿

持続可能な成長を続けるグローバル企業

■ 持続可能な成長を続ける企業

事業をESG、SDGsに結び付けて経営する企業

- ・ 販売する製品が、時代のニーズに合致している
- ・ 社会の状況変化に対応できる(社会問題、環境問題に配慮)
- ・ 地域、社会に受け入れられる
(雇用の平等、地域活性化、経済発展に貢献)
- ・ 全社員がコーポレートガバナンスを理解し、課題を意識している

■ グローバル企業

どの国でも生き残ることができる企業

- ・ 世界中どこでも販売できる製品を持ち、受け入れられ、必要とされている
- ・ 事業を行う国、地域の文化・考え方の違いを理解している
- ・ 事業を行う国、地域と共存し、その経済発展に貢献している
- ・ 外国籍含む従業員が多様で、その文化・気質を理解し受け入れている
- ・ どの国・地域においても同品質の製品、同レベルのサービスを提供でき、共通の企業理念を持つ

「持続可能な成長を続けるグローバル企業」 の実現のために

- ① 表面処理業界において競争に負けない体制をつくる。
- ② 世の中のニーズをいち早くキャッチし、製品開発に取り組み、社会問題の解決に貢献する。
- ③ 全社員をグローバル企業の一員にするために人材育成を充実させる。
- ④ 企業理念、経営方針を浸透させ企業ガバナンスを充実させる。

VII.新中期経営計画

1.基本方針

— Next 50 Innovation 2nd —

コア事業の強化

最優先課題

「マーケティング戦略」

「開発戦略」

「販売戦略」

組織的にマーケティング活動を行い、入手した情報に基づいた開発戦略、販売戦略を策定し、グループ間の連携の下、コア事業を強化する

当社のコア事業：ビアフィリング、POP[※]、装置

※POP：Plating On Plastic

ESG視点での 経営基盤構築

最優先課題

「人材育成」

グローバル業務の拡大と企業を取り巻く環境の変化に対応できる経営基盤を構築する。
そのための人材育成を最優先課題として取組み、ESG視点の経営を積極的に推進する。

2.数値目標

(百万円)

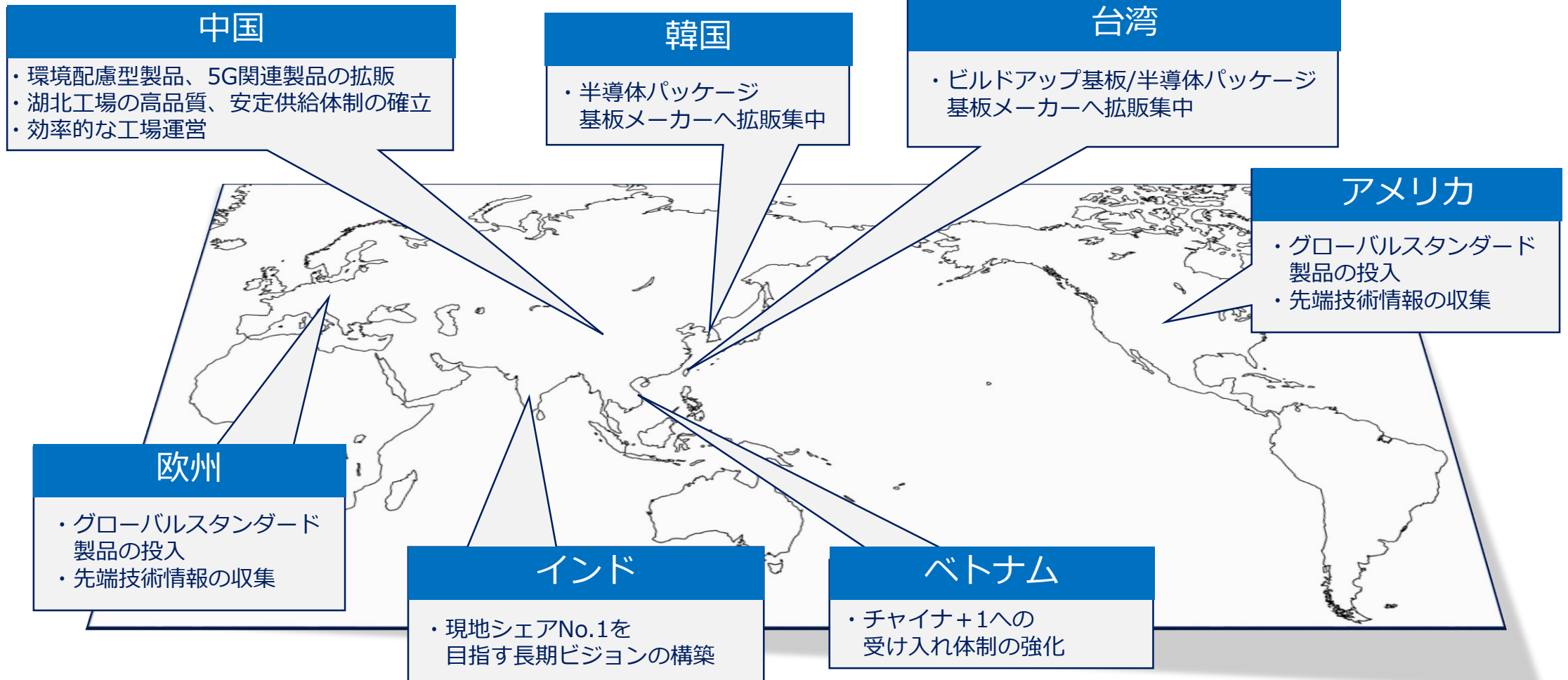
	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期
売上高	23,500	25,500	26,500
営業利益	7,500	8,000	8,500
経常利益	7,550	8,000	8,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,300	5,600	6,000

3.基本戦略－①

コア事業の強化	
開発	<ul style="list-style-type: none">・ 環境、コスト、健康を意識した製品開発・ 競合他社を凌駕する製品開発
薬品営業	<ul style="list-style-type: none">・ グローバル販売戦略に基づく組織的、効率的な販売活動
装置営業	<ul style="list-style-type: none">・ 薬品性能を最大限に引き出す装置の開発による競争力の向上
生産	<ul style="list-style-type: none">・ グローバルな生産体制の確立・ 顧客要求を満たす高品質な製品の安定供給
マーケティング	<ul style="list-style-type: none">・ 効率的な情報収集による販売力の強化

3.基本戦略－②

重点地域戦略



3.基本戦略－③

ESG視点での経営基盤構築

Environment

環境対応製品の開発、市場投入
CO₂削減目標の達成

Social

人材育成

Governance

経営・執行のモニタリング強化
グループガバナンスの強化

3.基本戦略－④

人材育成

当社に必要な人材像

高い開発力のある人材

高いサポート力のある
人材

グローバルに対応
できる人材

経営視点を持つ人材

テーマ

- 製品開発に必要な専門性の強化
- 現地スタッフの技術力、営業力向上
- 海外赴任体験制度の新設
- グローバル体制に適したキャリアパスへのシフト
- 戦略的な人員配置
- 管理職、管理職候補者向けマネジメント研修強化

3.基本戦略－⑤

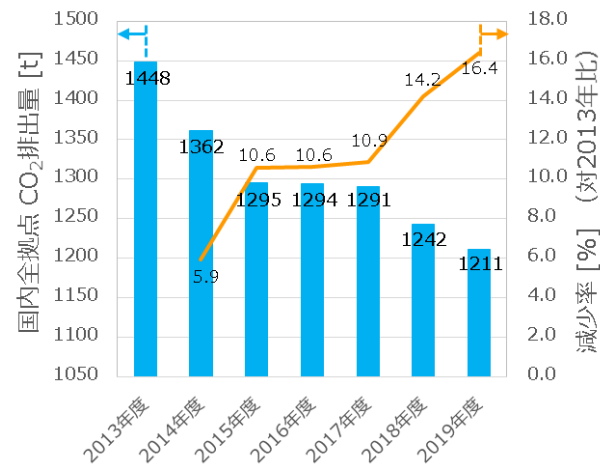
CO₂削減への取り組み



2014年3月期を基準に
2024年3月期までに国内総排出量20%減

具体施策

- 生産効率の向上
- 老朽設備の改修および更新による省エネ
- LED照明設置
- 太陽光パネル増設による自家発電増強
- カーボン・オフセットの継続



2014年3月～2020年3月の削減実績 16.4%減

2031年3月期までに
新潟工場「CO₂ゼロ」を実現

3.基本戦略－⑥

環境配慮型製品への取り組み

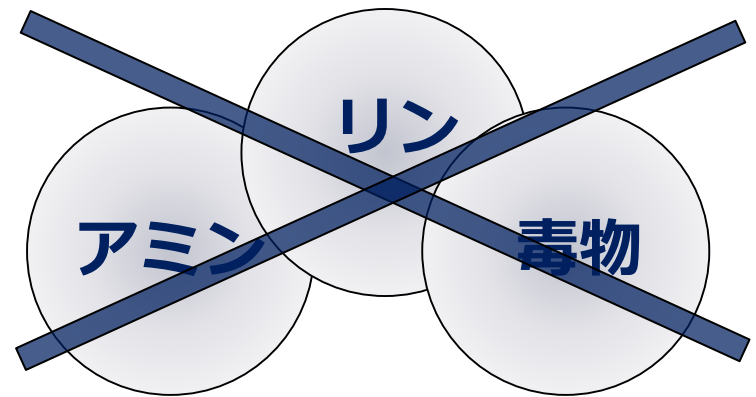


自動車部品分野向け

環境規制物質（6価クロム）を使用しないプロセス











電子分野向け



環境負荷物質を使用しない薬品の開発により排水処理の負荷を低減

当社はこれまでも様々な環境配慮型製品を開発、市場投入してきました。今後も環境負荷製品は開発しない、販売しないことを重要課題とし、持続可能な成長を続けるグローバル企業を目指します。

3.基本戦略－⑦

SDGsへの取り組み			
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そらぶちキッズキャンプへの協賛 	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市防災協力事業所として登録
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの推進 	 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮型製品 ・使用しやすい製品
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水の使用量削減 ・廃液処理負担低減製品 	 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂削減への取り組み ・カーボン・オフセットへの取り組み
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの利用 (太陽光発電設備の設置) 	 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮型製品 ・排水処理・廃棄物処理への配慮
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員の働きやすい環境の整備 	 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボン・オフセットへの取り組み ・排水処理・廃棄物処理への配慮
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮型製品 ・先端技術貢献製品 	 <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同業他社との協業、共同開発 ・カーボン・オフセットへの取り組み ・そらぶちキッズキャンプへの協賛
 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの推進 		

4. 資本政策の考え方

資本政策における当社のKPI

総還元性向

EPS

時価総額

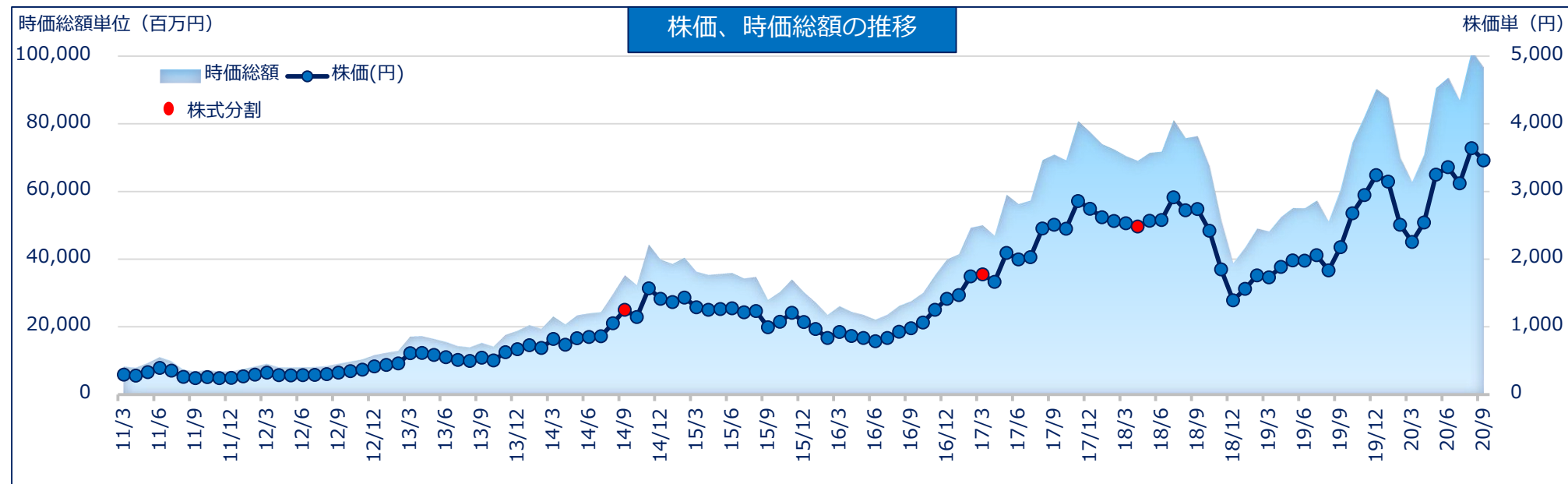
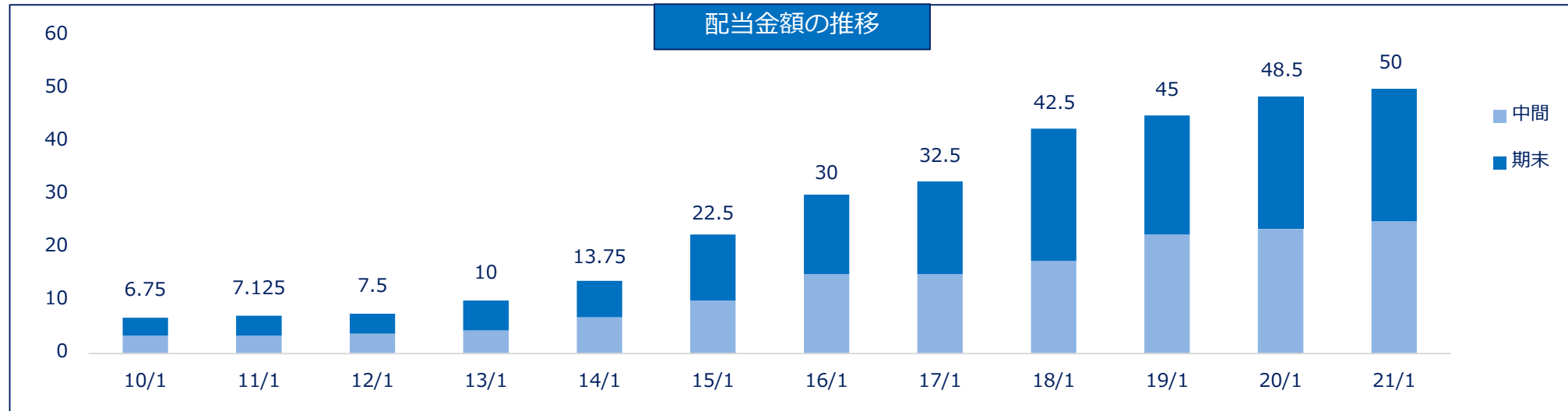
- 長期的な株主価値向上のための安定財務基盤を維持
- 自己資本を原資に設備投資やM&A投資を追求
- 財務健全性と資本効率の維持・向上
- 安定増配及び機動的な自己株式の取得検討

	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期
総還元性向	28.7%	26.1%	22.0%	19.8%	24.8%	29.7%	24.1%	44.1%	75.9%	49.2%
連結 配当性向	28.7%	26.1%	22.0%	19.8%	24.8%	22.0%	24.1%	25.2%	29.6%	28.0%
自社株買い 実績 (百万円)	—	—	—	—	—	320	—	948	2,051	999
EPS ※ (円)	52.25	76.61	62.51	113.57	120.88	147.55	176.31	178.55	163.97	178.33

※ EPSは、比較可能性を考慮し、株式分割後を基準に算出した数値を表示しています。
2014年10月1日：1株→2株分割 2017年4月1日：1株→2株分割 2018年4月1日：1株→2株分割

4. 資本政策の考え方

単位 (円/株)



ご質問やご不明な点がございましたら、下記へご連絡をお願いいたします。

【連絡先】

株式会社 J C U
経営戦略室 経営企画部 広報・IR課

〒110-0015
東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 16階
TEL : 03-6895-7004 FAX : 03-6895-7022
MAIL : ir2@jcu-i.com

本資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があり、本資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。